

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	保健福祉部福祉総務課	直通電話	72-3127	事業コード	301010504	課内	17	作成日	平成15年8月14日	
	担当者		村上弘晃		担当課長		大林啓二		担当部長	棚橋文男

1 事業のアウトライン

1) 事業名	遺族会補助金	開始年度	S41	終了年度	未定
			最近の事業内容見直し年度 なし		
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード 3010105 大項目 / 小項目 / 細項目 地域保健・福祉の推進 / 地域保健・福祉体制の整備 / 社会福祉協議会・福祉団体の活動促進				
3) 個別計画での位置付け					

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	戦没者遺族の福祉の向上を図るため。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	戦没者の慰霊を行うとともに遺族としての名誉と誇りを堅持し、遺族相互の親睦を図り福祉の向上を目指す。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	遺族会では、戦没者の慰霊のため、本市や北海道が主催する「追悼式」への参列や遺族大会の参加、また、遺族保障制度の研修会を行っており、その活動費の一部を補助している。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	特になし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	遺族の高齢化により、会員数は年々減少してきている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	特になし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	150	150	100	/	遺族会事業費に対する補助金	100
2) その他の間接経費(千円)						
3) 従事正職員の人件費(千円)	83	83	83			
総事業費(1~3の合計;千円)	233	233	183			
総事業費中の一般財源(千円)	233	233	183			
市民一人当たり一般財源使用額(円)	4	4	3			
事務に従事した正職員のべ人数	0.01人	0.01人	0.01人			
					H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	
研修会参加者数(人)	目標値	83	82	73	/	目標値は、遺族会の会員数である。
	実績値	27	26	28		
	達成率	32.5%	31.7%	38.4%		
	目標値				/	
	実績値					
	達成率					
	目標値				/	
	実績値					
	達成率					

5 事業の成果

事業名：遺族会補助金

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
追悼式参加者数 (人)	目標値	83	82	73	73	遺族会会員数に対する追悼式参加者数	追悼式参加者名簿
	実績値	49	41	30	目標レベル		
	達成率	59.0%	50.0%	41.1%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	遺族会(以下「本会」という。)は、先の大戦で亡くなられた方の遺族で構成する団体であり、その活動は、英霊の慰霊、そして遺族保障制度の改善運動、研修会の実施など、遺族相互の親睦を図り福祉の向上に努めているが、近年、遺族の高齢化により会員が減少しており、事業への参加者数や事業量も減ってきている状況から、本会の活動状況には一部問題ありと判断する。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	本会の事業目的からすれば、組織的には希薄化してきているものの、会員相互の親睦を図るという点では一定の効果はあるものと判断する。しかし、一般市民にとっては、戦争の悲惨さを体験している遺族が、先の大戦を風化させることなく「平和の尊さを後世に伝える。」という意義ある役割を持つと考えるが、本会の活動状況からは市民へのアピールが欠如しており、その有効性には疑問あると判断した。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	当該事業は、戦没者遺族等の援護施策として、市が関与(助成)することは一定の妥当性ありと判断する。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	当該事業の主たる目的は、英霊の慰霊と遺族相互の親睦を図ることであり、その点では一定の成果は認めるが、その活動への公正な公費負担という点では、活動状況に応じて補助金を交付する必要性から、平成14年度は事業活動を精査し改善(減額)した経緯からも一定の妥当性はあると判断した。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	C	[最終評価]	C (前年度)
	当該年度は事業量を精査し、その補助金の額を、本会の身の丈に合うよう減額したことから、総合的には可もなく不可もないと判断した。		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	今後は、被補助団体として本会とのより緊密な連携を図るとともに、事業活動や運営面での指導徹底を図る必要がある。
最終評価	課長評価を了承する。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		
	縮小方向	*	
	統合 休・廃止		
上についで説明	当該団体への補助金の額は、H15年度さらに縮減したが、事業内容は現状維持の方向		

(付表)
補助・負担金等事業内容整理表

担当部課： 保健福祉部福祉総務課

事業名： 遺族会補助金

1 補助・負担相手方の概況

補助・負担金名称	遺族会補助金
支出相手方(名称、代表者、構成員)	石狩市遺族会 (会長 相田次男 事務局員1名 会員数68名)
活動(事業)目的	遺族の福祉向上(戦没者の慰霊と顕彰事業並びに遺族保障制度の改善運動に関する事業)を目的とする。

2 補助・負担相手方の財政状況等

(単位:千円)

		H12決算		H13決算		H14決算		H15予算	
		全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象	全体	補助対象
歳出決算 (予算)状況	事務費	19		21		14		14	
	事業費	226	226	190	190	135	135	156	156
	旅費	16		9		13		5	
	負担金	50		49		43		50	
	慰霊金	10		10		10		10	
	活動費等	55		53		83		31	
	歳出合計	376	226	332	190	298	135	266	156
歳入決算 (予算)状況	遺族会補助金	150	39.9%	150	45.2%	100	33.6%	70	26.3%
	会費	177		151		141		141	
	繰越金	49		27		57		55	
	諸収入	0		4					
	歳入合計	376		332		298		266	
補助・負担対象経費の内容	諸経費の内、事業費の額のみを対象としている。(慰霊金、弔慰金等は補助金に馴染まないため対象外である)								
補助・負担金額の算定方法	会員数等、遺族会の規模等による。								

3 補助・負担相手方の活動状況

活動結果を示す指標名	H12実績	H13実績	H14実績	H15目標
研修会開催回数(回)	3回	2回	2回	2回
平成14年度活動(事業)実績	総会、研修会2回、追悼式出席、彰徳碑参拝等を実施。			

4 特記事項

--